

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

# 研修会記録

第 2 号

令和4年 8月1日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 岡村 伸一郎

【提案日時】

7月 6日 (水)

提案 高橋 裕一郎 先生 (浜小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 曾根 美奈子 先生 (寺尾小)

記録 中嶋 裕太 先生 (浅間台小)

## 1 提案内容 単元名

単元名「わたしたちの身近な地域と市の様子～磯子のまちと横浜市について～」

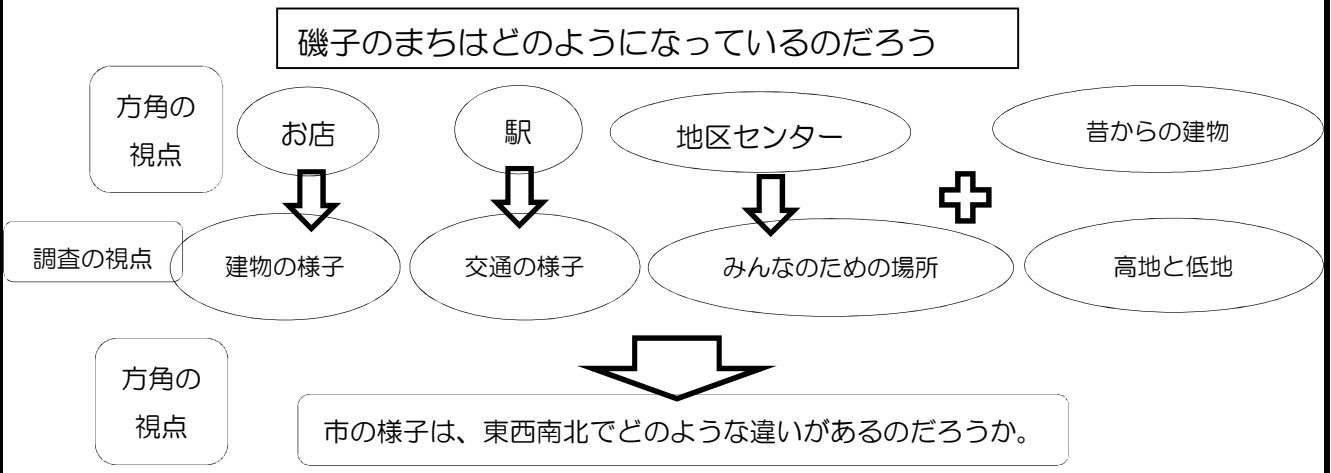
## 2 提案者より

生活科での経験や屋上からまちを眺めたときに、「行ったことのない地域はどのようなところなのか」という疑問をもったことで、方位を意識し「磯子のまちはどのようなになっているのだろうか。」という単元を見通す学習問題が生み出された。横浜市の様子の学習も同様に方位を意識した学習に取り組むことができた。しかし、単元をまとめる本時では、方位を意識した発言が少なかった。方位を意識しながらも、子ども達が既習内容を生かし、社会的な条件や地理的条件を関連付けられる手立てが必要であったと考える。

### 視点①

#### ○単元づくりについて

単元の始まりである身近な地域の学習では、生活科のふり返りから始まり、屋上からまち全体を見る活動を行った。知らない建物を見てみたいという関心が高まり学習を進めた。そして、予想から調査の視点を設定した。「昔からの建物」「場所ごとの様子の違い」の必要な視点は、教師から提示した。



## 視点②

### ○協働的な学びに向けて

行ったことのないまちの様子をとらえていくためにICT機器を活用した。「つなげる」「励ます」教師の声掛けにより、自分の考えだけでなく、友だちの考えを聞いて発言する様子がみられるようになった。

## 2 協議会

### 視点①単元計画について

「市」の学習においては、身近なまちの様子についての学習を生かすことが大切である。まちの調査では調査の視点を明確にし、子ども達が主体的に活動できるような手だてが必要である。まちの学習でいかに子どもたちに主体性をもたせながら「学ぶことの楽しさ」を生み出せるかが大切。

### 視点②ICT機器の活用について

ICT機器の活用により、行ったことのない地域をイメージしやすくなっていた。しかし、従来使用していた「地図」からの気づきも大切なのではないか。ICT機器のみだと操作が難しく、社会的事象の関連性に気づきにくいという課題が見えた。地図で読み取ったことを全体で確認するには有効ではあるが、「比較する」「関連付ける」ためには地図などの資料をじっくり見る必要があるのではないか。

### <講師の先生より> 大曽根小学校 校長 宮本 雅司先生

ワクワクする授業にするためにどのように単元を構想するかが大切。子ども達がワクワクするためには、教師が学ばせたいことと、子ども達が知りたいことを結び付けながら質の高い学習問題を生み出していく必要がある。浜小学校の周りを見ると、横浜市の学習に生かせる視点が多くある。子どもが身近な地域を調べ始め、学習を計画していく時間が大切である。屋上からまちを見たときに、子どもの声をしっかりと聞き、学習の視点を教師が整理していく必要がある。

まちの調査を進めていく中で、ICT機器で立体的に見ながら平面の地図に表していくこともよい。空間の認識はとても大切な資質・能力である。また、調査したり、まとめたりするときに方位を意識するのもよいが、方位を学ぶのではなく、学習内容の5つの視点で大まかに地域の様子を捉えることが大切である。

文責 北沢 宏 (間門小学校)